

まちづくり如若者の声

常陸大宮市議会 高校生と意見交換

常陸大宮市議会は6、7日、市内の県立高2校の生徒と意見交換会を開いた。同市議会広報聴取委員会

(委員7人)の市議が出向き、まちづくりに若者の声を積極的に取り入れようと企画した。両校とも1年生



④市議と意見交換する小瀬高1年生
＝常陸大宮市上小瀬⑤市議に質問する常陸大宮高1年生＝同市野中町

が参加し「これからの常陸大宮市を共に語ろう」をテーマに話し合った。

小瀬高校では人口減少を市の課題として挙げた一方、「将来も常陸大宮に住み続けたい」と答えた生徒も多数だった。その理由に「自然が豊かで、他と比べ農産物が安い」と述べた。

そのほか市議は「自分で行く手段がない高齢者らの交通対策として、公共ライドシェアの実証運行が始まった」と話した。

常陸大宮高校では「バスや水郡線の本数を増やしてほしい」「映画館がなく遊べる場所も少ないので、つくってほしい」などの要望ほか、議員になって良かったことなどを質問した。市議は「生活に関する相談を受けることも多く、解決した時に『人の役に立てた』と思える」と答えていた。

小瀬高の長沼心花さん(16)は「市の魅力に改めて気付かされた。課題や魅力発見の探究授業に生かしたい」と話し、常陸大宮高の木村宙斗さん(16)は「市議の仕事が分かった。市民の意見に耳を傾け、市政について常に考えていることを知った」と述べた。(高島和弘)